

令和6年度 第2回 開成中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和6年7月10日(水)14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 開成中学校 多目的室
- 3 出席委員 名波 弘充、吉田 葉津美、石川 夏紀、若松 由希野、磯部 多秀、
高林 正嗣、杉山 幸生
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 嶋田 哲也(北部協働センター所長)
- 6 学 校 吉田 拓司(校長)、山守 達大(教頭)、山田 亘(主幹教諭)、
松本 敬介(CS担当)、平野 有一(2年主任)、山崎 智子(CSディレクター)
- 7 教育委員会 牧野 知子(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 山崎 智子
- 10 議長の選出

司会の山田主幹教諭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、名波委員から吉田委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 学校評価について
- (2) 職場体験について

12 会議記録

司会から、委員総数7人全員の出席があり過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。また、熟議に先立ち、前回会議録の確認が行われた。

(1) 学校評価について

議長の指示により、山田主幹教諭から、別紙資料に基づき学校評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・経年変化をみるために昨年度と同じ評価項目にしてあることは納得できる。昨年度評価が低かった項目は今年度どのような評価になるか、結果に注目したい。(名波委員)
- ・評価の低い項目について、先生方がどういう意見なのか気になる。(杉山委員)
- ・自分も保護者としてアンケートに回答をしているが、どれを選ぶか回答に悩むことがある。(磯部委員)
→「ふつう」という真ん中の選択肢を作ると、回答がそこに集中してしまう。(山守教頭)
→真ん中の選択肢を作ると意見が捉えにくくなってしまう。言葉の表現をもう少しわかりやすくするよう検討していきたい。(山田主幹教諭)
- ・項目の個数や内容はよいと思う。傾向を探るために真ん中の選択肢がないのもよいと思う。一つの質問にいろいろ書いてあると回答しにくい場合もあるので、質問の仕方についても検討してみてはどうか。(石川委員)
- ・たしかに、一つの質問に生活、学習、部活動などがまとめて書いてあると回答に悩むと思う。(若松委員)

- ・保護者と子供では評価にズレがある場合もあるのではないかと感じていると、実際子供はできていないこともある。(高林委員)
- ・回答を棄権した保護者について気になる。質問や選択肢の言葉をわかりやすくすれば評価しやすくなるのではないかと。(嶋田オブザーバー)
- ・今年度は同じ評価項目にしつつ、よりわかりやすい質問になるよう工夫していく。(山守教頭)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 職場体験について

議長の指示により、平野学年主任から、別紙資料に基づき職場体験についての説明と体験を受け入れてくれる事業所探しの協力依頼があり、委員からは以下の発言があった。

- ・コロナ前まで職場体験を行っていた。そのときのリストにある事業所をあたってみたらどうか。(高林委員)
- ・希望がとおらない生徒がでてくると思うが大丈夫か。(杉山委員)
 - 希望する職業ではないところでも、体験してみると新たな発見をすることがある。必ずしも希望どおりでなくてもよいと思う。(山守教頭)
- ・1つの事業所での受け入れ人数は、1人でもよいのか。(石川委員)
 - 最低でも2～3人。できれば3人以上だとありがたいです。(平野学年主任)
- ・受け入れ可能な事業所について、さくら連絡網で保護者に連絡をしてみたらどうか。自営業の方が受け入れてくれたり、知り合いの事業所等を紹介してもらえたりするかもしれない。(杉山委員)
 - 検討します。(吉田校長)
- ・自治会の回覧板を使って、受け入れ可能な事業所を募集してみたらどうか。(吉田委員)
 - 公の知らせについては回覧可能。(名波委員)
- ・自分が中心となって受け入れ先を増やしていきます。(杉山委員)
 - よろしくお願いします。(吉田校長)

13 その他連絡事項等

司会から、次回会議は、令和6年11月13日(水)午後2時30分から開催する旨の連絡があった。